

岡山県感染症週報 2012 年 第 32 週 (8 月 6 日～8 月 12 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 32 週 (8/6～8/12) の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 30 週 2 類感染症 結核 7 名 (20 代 男 1 名、50 代 男 1 名、60 代 男 1 名、70 代 女 1 名
80 代 男 2 名、90 代 女 1 名)
 第 31 週 2 類感染症 結核 1 名 (80 代 男)
 5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (40 代 男)
 第 32 週 2 類感染症 結核 4 名 (20 代 女 3 名、30 代 女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 87 名 (O111 : 30 代 男 1 名、O157 : 幼児 女 1 名、
O26 : 幼児 男 42 名・女 31 名、10 代 男 1 名、20 代 女 3 名、30 代 女 3 名、
40 代 男 1 名・女 2 名、50 代 女 1 名、60 代 女 1 名)

■定点把握感染症の発生状況

- ヘルパンギーナは、2 週つづけて減少しました。
- RS ウィルス感染症の県内での発生は少数ですが、全国では増加傾向です。

【速報 第 33 週】

- 腸管出血性大腸菌 O26 感染症 8 名の発生がありました。 (幼児 男 1 名・女 1 名、10 代 女 1 名、
20 代 女 1 名、30 代 女 2 名、40 代 女 1 名、50 代 女 1 名)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、2012 年は 8 月 15 日までに 127 名、8 月の発生は 105 名になりました。岡山県では 8 月 7 日、「腸管出血性大腸菌感染症警報」を県下全域に発令し、より一層の注意を呼びかけています。症状や予防法など、詳しくは岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症警報 発令中！](#)』をご覧ください。
 また、倉敷市の 3 保育園で発生した腸管出血性大腸菌 O26 感染症における感染者数は、8 月 15 日までに 104 名（園児 83 名、職員 7 名、接触者 14 名）に増加しました。倉敷市の専門家会議では、今回の集団発生は、何らかの食を介して園内に持ち込まれ、二次汚染により拡大した可能性が高いと考えられていますが、ひきつづき原因・感染経路については調査中です。
 腸管出血性大腸菌感染症は、微量の菌により感染するため、食品の取り扱いには十分に注意して、食中毒の発生予防を徹底するとともに、手洗いの励行など、ヒトからヒトへの二次感染には十分注意する必要があります。
2. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者数は、第 30 週をピークに 2 週つづけて減少しました（定点あたり 2.13 → 1.67 人）。例年 9～10 月頃まで流行がみられますので、今後も県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めて下さい。
 詳しい発生状況などは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. **RS ウィルス感染症**の定点あたり患者数は、岡山県では少数にとどまっていますが、全国統計では増加傾向です。
 発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. **風しん**は、2012 年、岡山県ではこれまでに 5 名の届出がありました。
 全国では、8 月 2 日～8 日の一週間に 99 名増加し、2012 年 8 月 8 日までの累計報告数は 1,016 名になりました。近畿地方（特に大阪府、兵庫県）・関東地方（特に東京都、神奈川県）で増加がつづいており、今後の動向に注意が必要です。

（[全国風しん発生動向調査](#) [国立感染症研究 HP](#)、[岡山県感染症情報センター HP](#)）

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	↖	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↖	★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	↑	★
手足口病	↖	★	伝染性紅斑	→	★
突発性発疹	→	★★	百日咳	↓	
ヘルパンギーナ	↖	★★	流行性耳下腺炎	↑	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↑	★★
マイコプラズマ肺炎	↖	★	クラミジア肺炎	↓	

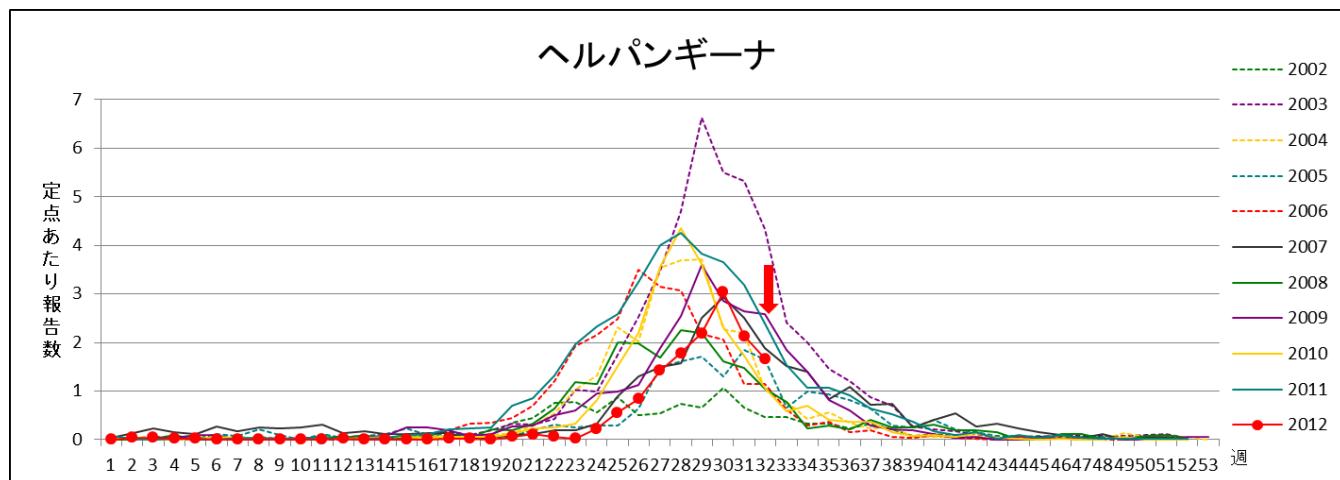
【記号の説明】

前週からの推移 : ↓ : 2倍以上の減少 ↖ : 1.1~2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減
 ↘ : 1.1~2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加
 発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数は、第30週をピークに2週つづけて減少しました（定点あたり2.13 → 1.67人）。県内全域で患者は減少傾向です。年齢別では0～3歳の乳幼児が全体の約67%を占め、5歳以下が患者の中心です。例年、9月～10月頃まで流行が見られる感染症ですので、今後も手洗いを行うなど感染予防に努めて下さい。

【ヘルパンギーナとは】

夏に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径1～2mmの赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。通常2～4日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんや髄膜炎を伴うことがあります。口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、乳幼児では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながることがありますので注意が必要です。

2. RS ウィルス感染症

RS ウィルス感染症が全国では増加傾向です。

RS ウィルス感染症は、例年冬（11月～1月）に流行が見られる急性呼吸器感染症です。2011年は例年ならば低い水準で推移する7月頃から患者増加が認められ、これまでとは異なる動向を示し、大きな流行になりました。

2012年も昨年と同様の傾向がみられ、例年よりも早い、夏からの患者増加が懸念されます。

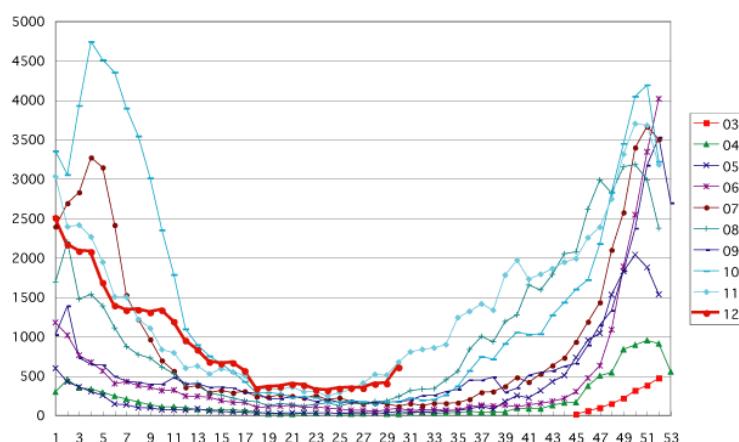
岡山県では、患者は少数（定点あたり0.04人）にとどまっているものの、第31週全国集計によると、近県の広島県（0.39人）、香川県（0.20人）などでは増加傾向です。

RS ウィルス感染症は重篤性や合併症から、特に乳幼児においては極めて重篤な感染症です。乳幼児にしばしば肺炎や細気管支炎を発症し、生後6ヶ月以下の乳幼児においては重症化し、入院を必要とすることもあります。

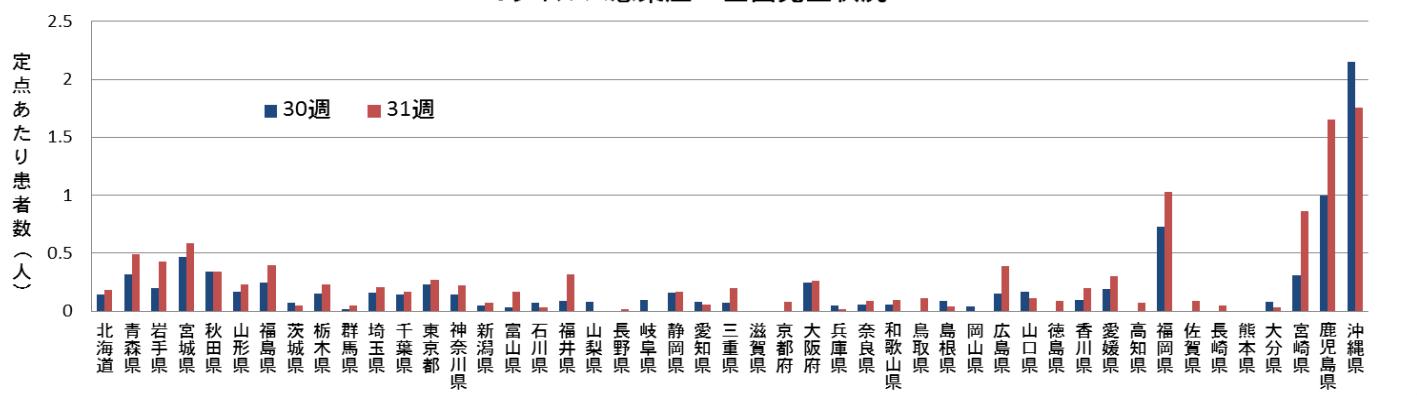
[\(国立感染症研究所「RS ウィルス感染症とは」\)](#)

全国の RS ウィルス感染症 過去 10 年間との比較グラフ

(国立感染症研究所 第31週週報より)



RSウイルス感染症 全国発生状況



保健所別報告患者数 2012年 32週

(2012/08/06～2012/08/12)

2012年8月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	2	0.04	-	-	-	-	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	9	0.17	5	0.36	1	0.09	-	-	1	0.14	2	0.50	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	0.30	3	0.21	1	0.09	1	0.10	6	0.86	-	-	3	1.50	2	0.33
感染性胃腸炎	222	4.11	30	2.14	60	5.45	54	5.40	14	2.00	18	4.50	7	3.50	39	6.50
水痘	36	0.67	13	0.93	9	0.82	-	-	6	0.86	-	-	2	1.00	6	1.00
手足口病	19	0.35	6	0.43	6	0.55	4	0.40	2	0.29	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	31	0.57	15	1.07	5	0.45	8	0.80	2	0.29	-	-	1	0.50	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	90	1.67	37	2.64	18	1.64	8	0.80	8	1.14	6	1.50	3	1.50	10	1.67
流行性耳下腺炎	22	0.41	6	0.43	5	0.45	9	0.90	2	0.29	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	3	0.60	5	1.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	9	0.17	5	0.36	1	0.09	-	-	1	0.14	2	0.50	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	0.30	3	0.21	1	0.09	1	0.10	6	0.86	-	-	3	1.50	2	0.33
感染性胃腸炎	222	4.11	30	2.14	60	5.45	54	5.40	14	2.00	18	4.50	7	3.50	39	6.50
水痘	36	0.67	13	0.93	9	0.82	-	-	6	0.86	-	-	2	1.00	6	1.00
手足口病	19	0.35	6	0.43	6	0.55	4	0.40	2	0.29	-	-	1	0.50	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	90	1.67	37	2.64	18	1.64	8	0.80	8	1.14	6	1.50	3	1.50	10	1.67
流行性耳下腺炎	22	0.41	6	0.43	5	0.45	9	0.90	2	0.29	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	9	0.75	3	0.60	5	1.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
 薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第32週 2012/08/06～2012/08/12)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～						
RSウイルス感染症	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	9	-	-	2	-	1	2	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	-	1	1	2	3	2	2	1	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	1	
感染性胃腸炎	222	2	21	33	24	19	21	20	15	9	5	9	18	6	20	-	-	-	-	-	
水痘	36	3	2	7	4	6	7	3	1	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病	19	-	1	4	3	2	3	2	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	3	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	31	1	13	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	90	-	5	31	17	7	7	10	4	4	-	1	1	-	3	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	22	-	-	1	1	5	3	5	2	1	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	1	3
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～				
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

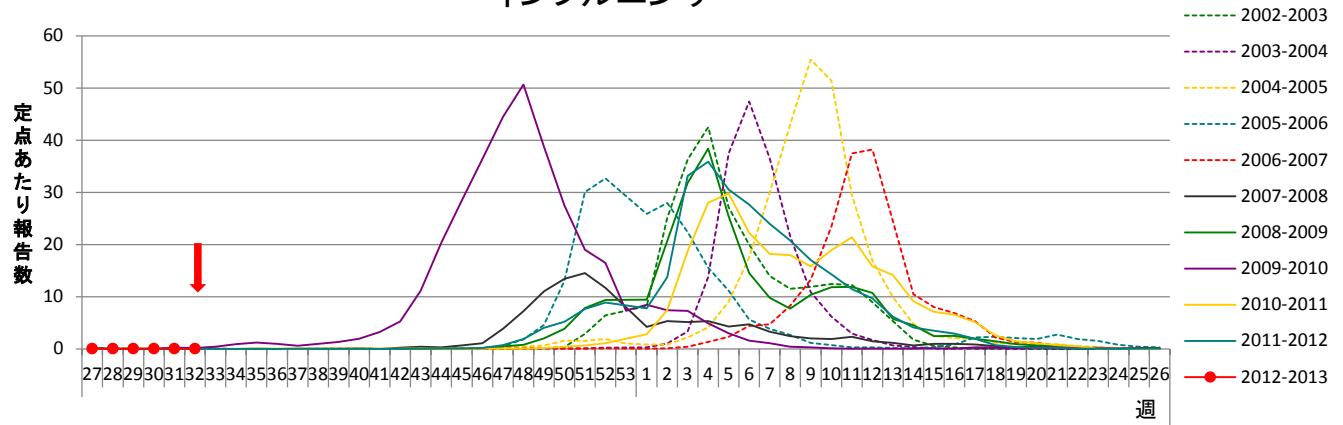
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

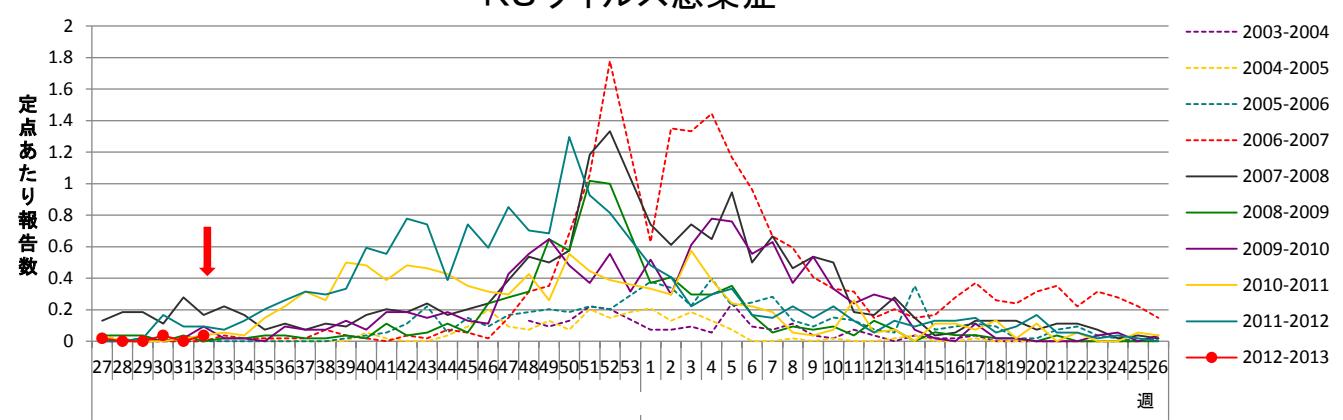
2012年 32週

分類	疾病名	2012			2011			疾病名	2012			2011			
		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	—	—	—	クリミア・コンゴ出血熱	—	—	痘そう	—	—	—	—	—	—	
	南米出血熱	—	—	—	ペスト	—	—	マールブルグ病	—	—	—	—	—	—	
	ラッサ熱	—	—	—		—	—		—	—	—	—	—	—	
二類	急性灰白髄炎	—	—	—	結核	4	278	557	ジフテリア	—	—	—	—	—	—
	重症急性呼吸器症候群	—	—	—	鳥インフルエンザ(H5N1)	—	—	—		—	—	—	—	—	—
三類	コレラ	—	—	—	細菌性赤痢	—	—	1	腸管出血性大腸菌感染症	87	119	67	—	—	—
	腸チフス	—	1	—	パラチフス	—	—	—		—	—	—	—	—	—
四類	E型肝炎	—	—	1	ウエストナイル熱	—	—	—	A型肝炎	—	2	3	—	—	—
	エキノコックス症	—	—	—	黄熱	—	—	—	オウム病	—	—	—	—	—	—
	オムスク出血熱	—	—	—	回帰熱	—	—	—	キヤサヌル森林病	—	—	—	—	—	—
	Q熱	—	—	—	狂犬病	—	—	—	コクシジオイデス症	—	—	—	—	—	—
	サル痘	—	—	—	腎症候性出血熱	—	—	—	西部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—
	ダニ媒介脳炎	—	—	—	炭疽	—	—	—	チケンギニア熱	—	—	—	—	—	—
	つつが虫病	—	1	3	デング熱	—	—	—	東部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ	—	—	—	ニパウイルス感染症	—	—	—	日本脳炎	—	—	—	—	—	—
	日本紅斑熱	—	—	3	ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	Bウイルス病	—	—	—	—	—	—
	鼻疽	—	—	—	ブルセラ症	—	—	—	ベネズエラウマ脳炎	—	—	—	—	—	—
	ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	発しんチフス	—	—	—	ボツリヌス症	—	—	1	—	—	—
	マラリア	—	—	—	野兎病	—	—	—	ライム病	—	—	—	—	—	—
	リッサウイルス感染症	—	—	—	リフトバレー熱	—	—	—	類鼻疽	—	—	—	—	—	—
	レジオネラ症	—	13	37	レプトスピラ症	—	—	—	ロッキー山紅斑熱	—	—	—	—	—	—
五類	アーベバ赤痢	—	9	11	ウイルス性肝炎*3	—	4	9	急性脳炎*4	—	1	3	—	—	—
	クリプトスピリジウム症	—	—	—	クロイツフェルト・ヤコブ病	—	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	—	—	1	—	—	—
	後天性免疫不全症候群	—	11	15	ジアルジア症	—	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—
	先天性風しん症候群	—	—	—	梅毒	—	4	9	破傷風	—	1	3	—	—	—
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	—	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	—	1	—	風しん	—	5	1	—	—	—
	麻しん	—	6	4		—	—	—		—	—	—	—	—	—

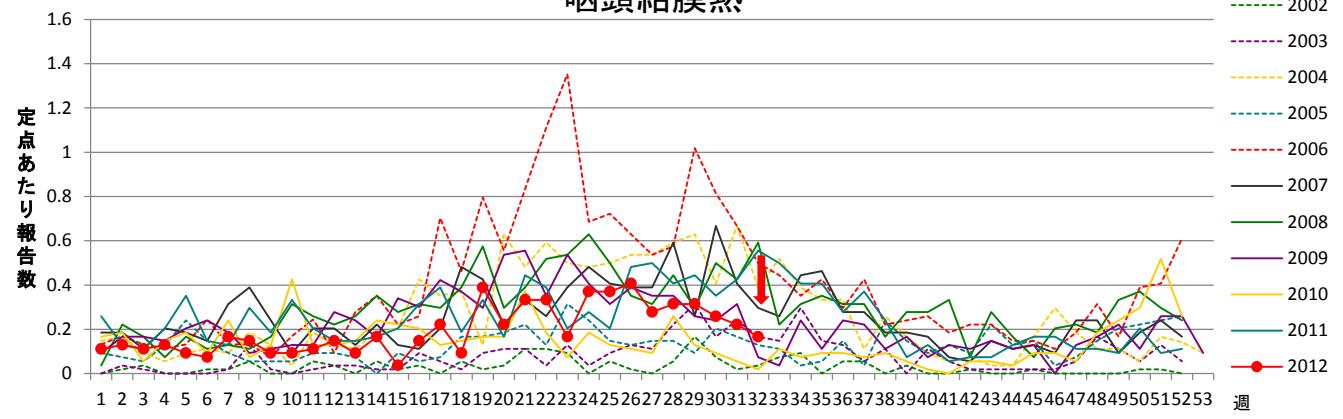
インフルエンザ



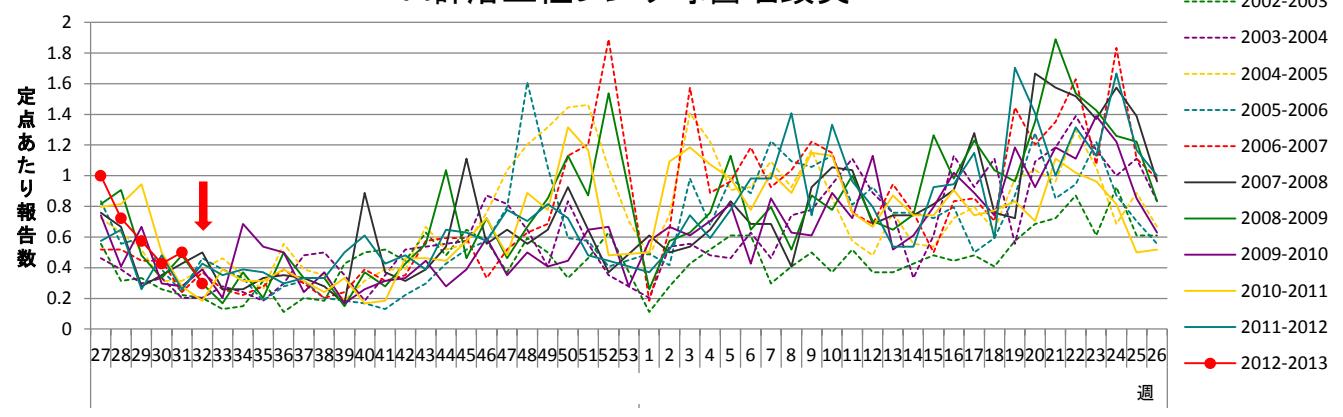
RSウイルス感染症



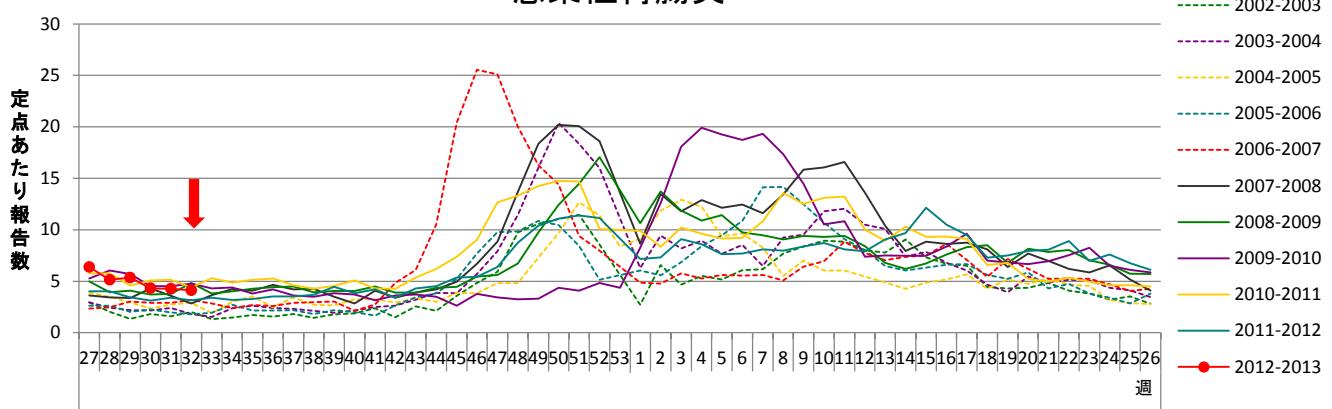
咽頭結膜熱



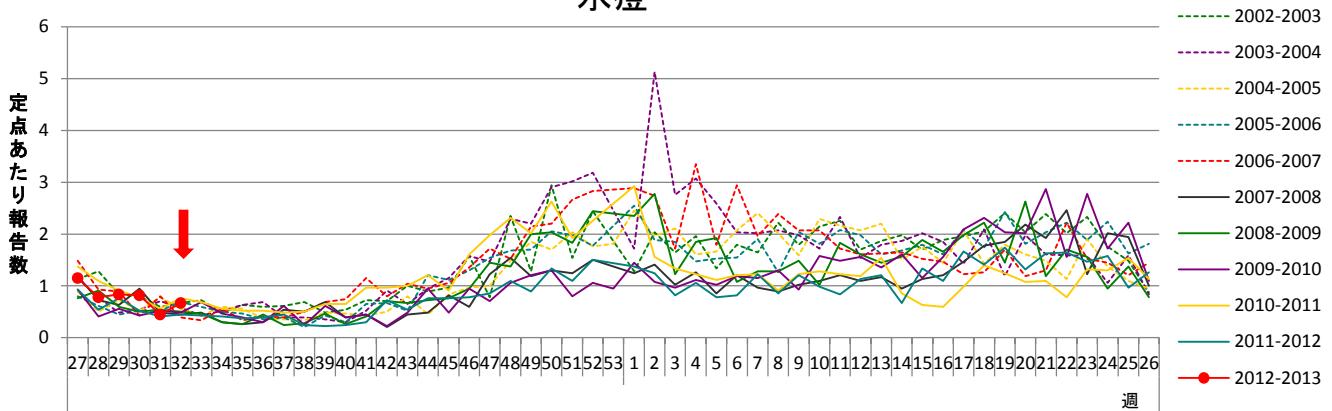
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



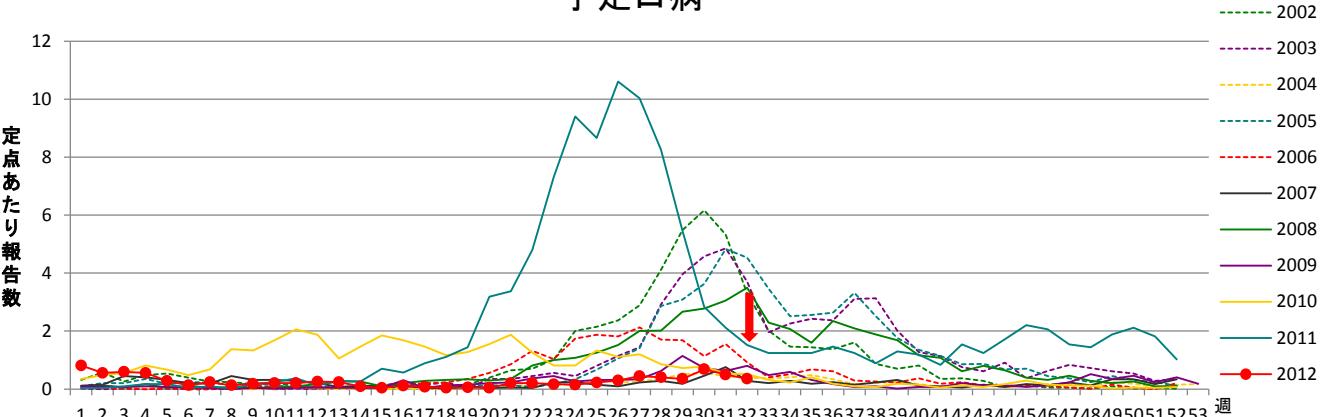
感染性胃腸炎



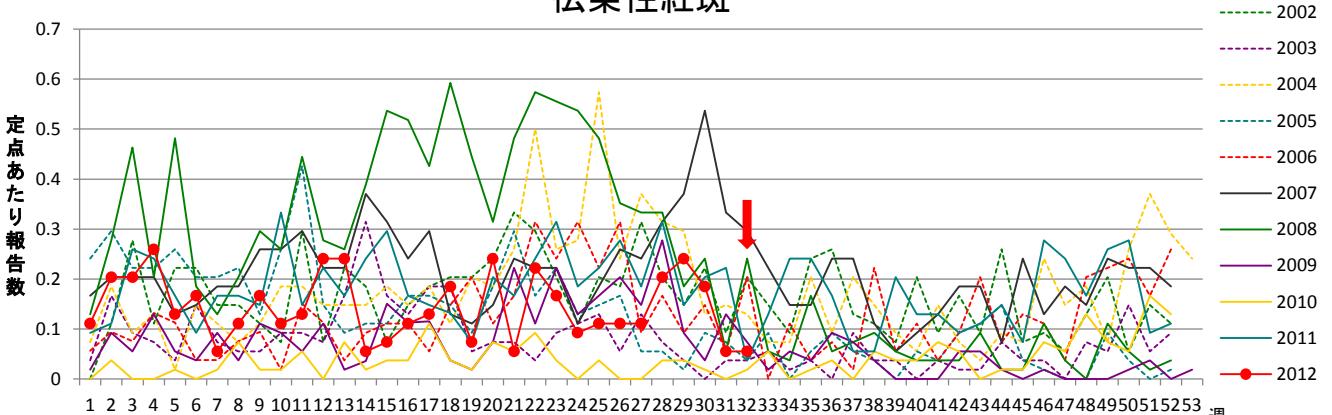
水痘



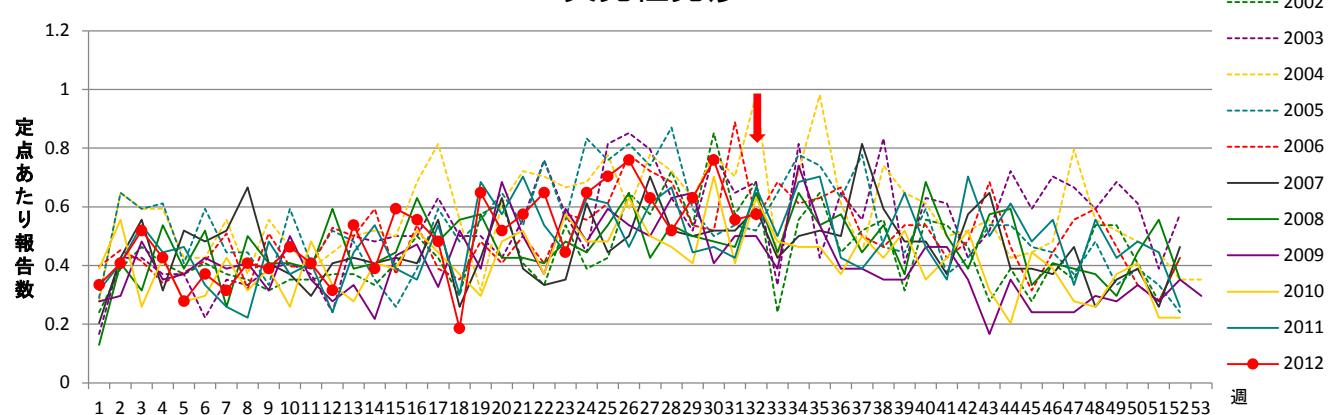
手足口病



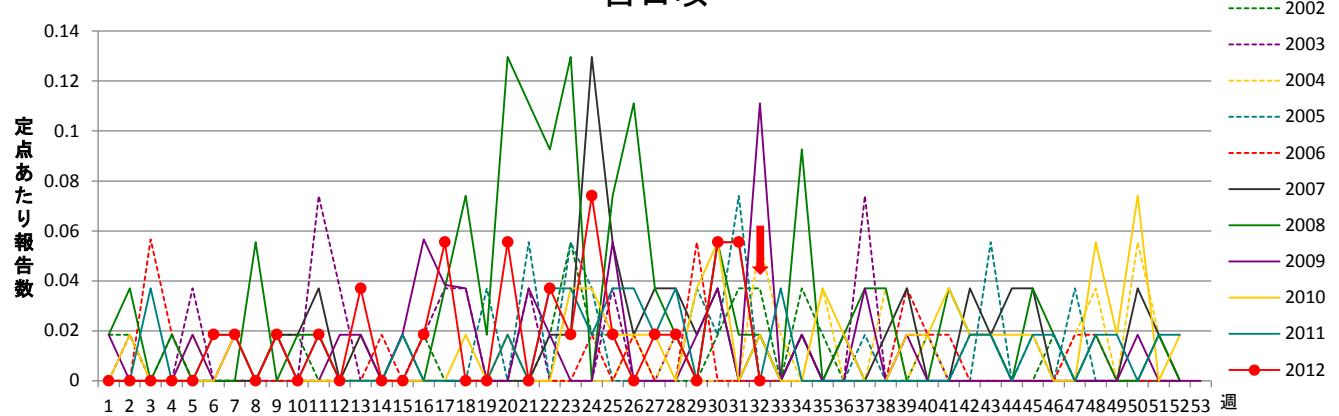
伝染性紅斑



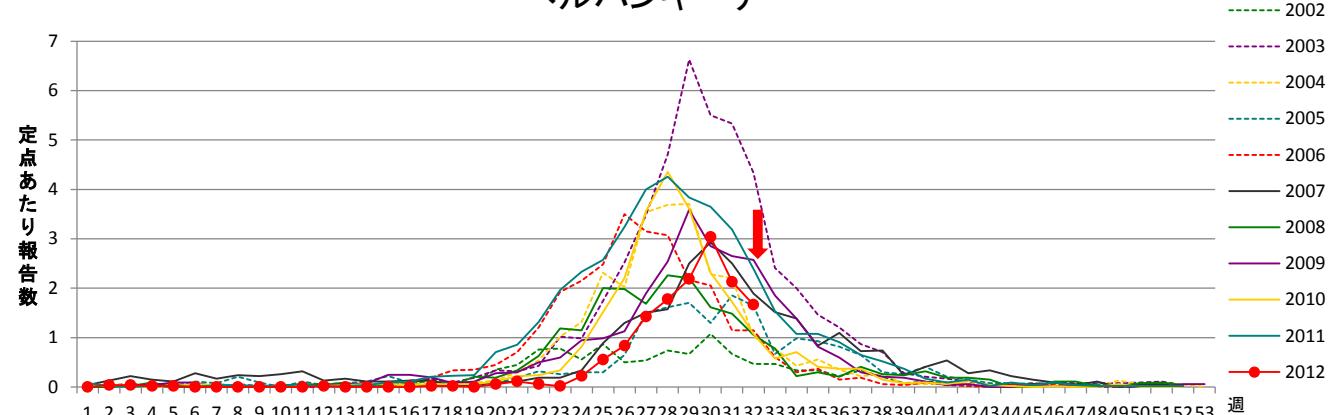
突発性発疹



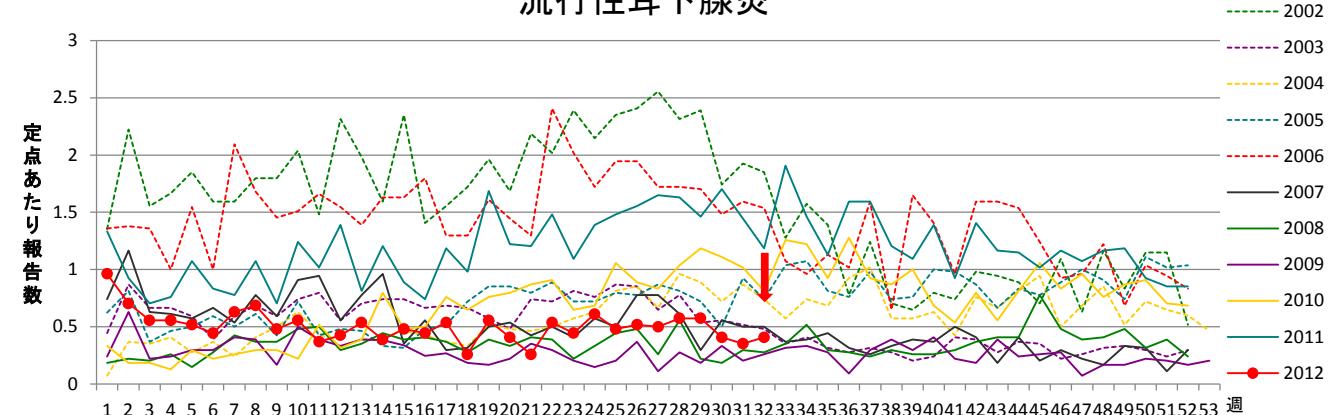
百日咳



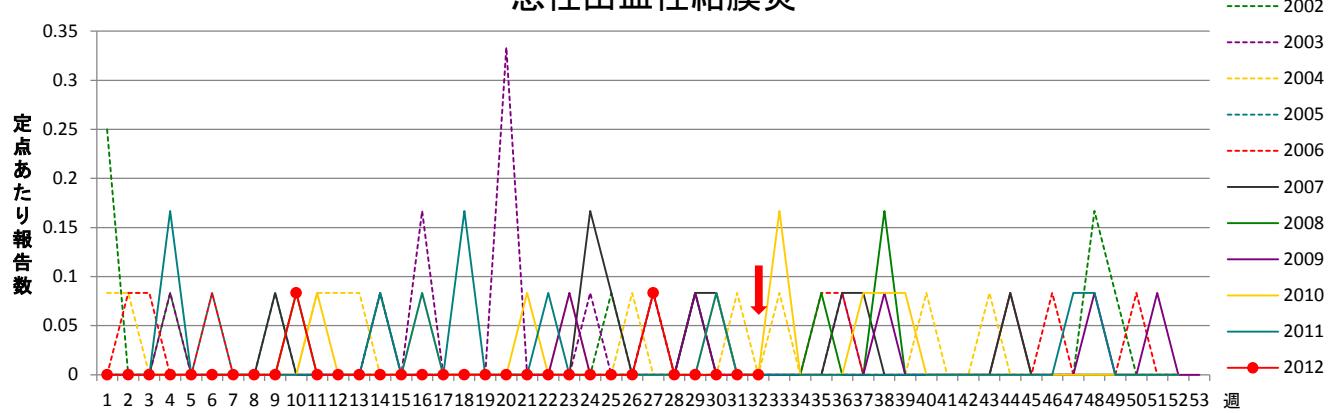
ヘルパンギーナ



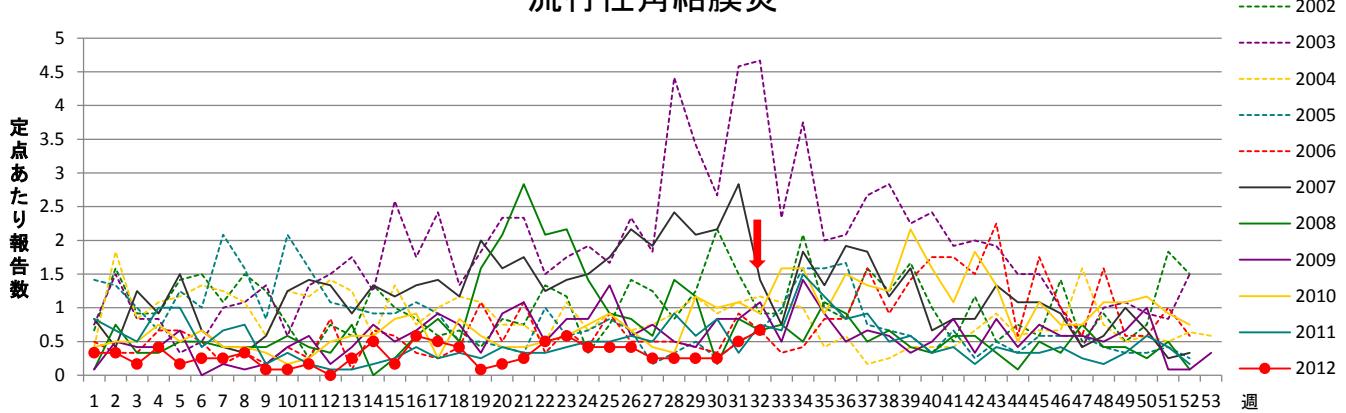
流行性耳下腺炎



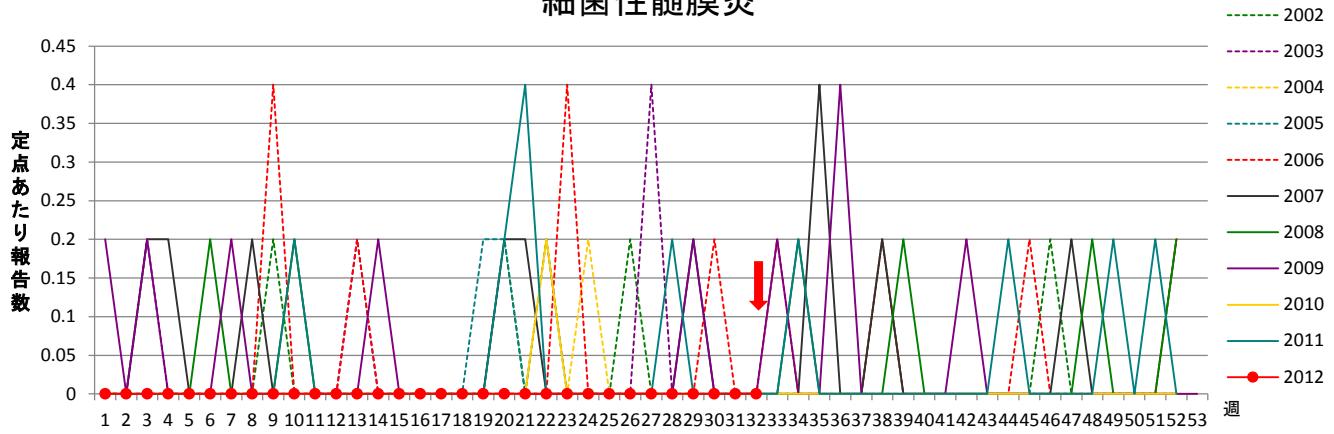
急性出血性結膜炎



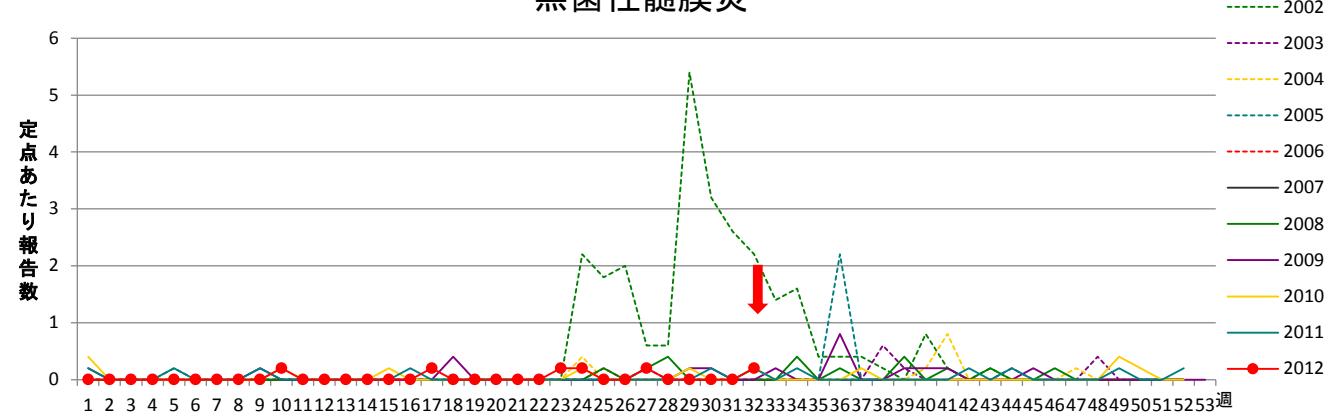
流行性角結膜炎



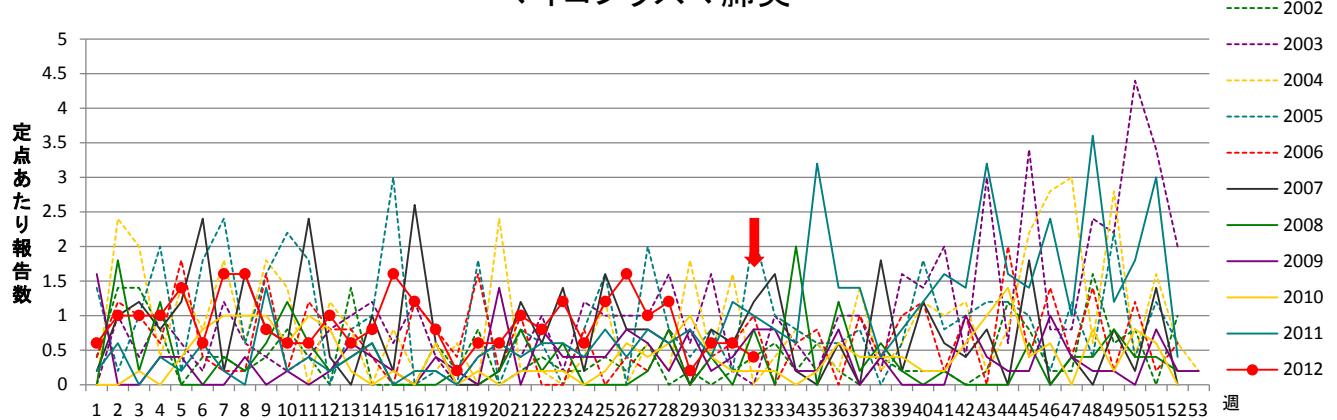
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

